



## 愛知県少年チーム 3位入賞の大健闘!

大型の台風19号が列島縦断コースで接近しつつある10月13日(月・祝)、講道館で日整柔道大会が開催された。愛知県の少年チームは優勝チームに準決勝で敗れ、惜しくも優勝を逃した。形競技会で本県ペアは、見事な技を披露するも予選敗退で涙を飲み、また会員の大会で東海東部は善戦するも1回戦敗退となった。

第23回文部科学大臣杯争奪  
日整全国少年柔道大会  
第4回文部科学大臣杯争奪  
日整全国少年形競技会  
第38回厚生労働大臣旗争奪  
日整全国柔道大会

少年大会は午前9時から開会式が行われ、9時20分より4試合場で試合が開始された。台風の影響で開催が危ぶまれたが、愛媛県を除く全国47チーム235名のチビッ子選手が参加し、日ごろの鍛錬の成果を競った。



監督と選手たちに労をねぎらう森川会長

本県チームは昨年、4年ぶりの準優勝を果たし、今回も上位入賞が期待されるなか、羽田野 剛監督(豊橋)率いる大将・中東龍人(小6)、副将・加古裕慈(小6)、中堅・山本悠人(小5)、次鋒・菊池駿星(小5)、先鋒・竹市裕亮(小5)の5選手が、並みいる強豪チームを撃破し準々決勝まで勝ち進んだ。

1回戦は何度もの入賞経験を持つ東京Aチームと当たり、準々決勝ではここ6年で3回の優勝を誇る神奈川チームと対戦した。特に神奈川チームはここまで見事な戦いぶりを見せており最大の難関と予想されたが、次鋒と副将が頑張って2-0で勝利した。準決勝は青森と対戦。大将が一本をとったものの、先鋒と副将が破れて惜敗、決勝進出を逃して3位となった。しかし昨年の準優勝に続く入賞に、父兄をはじめとする応援者が健闘を讃えた。

少年大会と同時進行で別会場で開催された形競技会は、昨年までの15チームから倍増し、29チームがA・Bふたつのブロックに分かれて予選を戦った。森 正仁監督(半田)率いる石原涼葉(取・小5)・内田華帆(受・小6)の女子ペアはBブロックの11番目に出場。昨年も全国レベルが上がっていたが今回は一段とレベルが上がり、Bブロック5位で残念ながら上位3チームに入れず決勝戦には進めなかった。優勝から3位までをすべてBブロックが占めており、抽選の不運にも見舞われた形となった。来年の飛躍を期待する。



会員の大会は悪天候を考慮して20分繰り上げ、午後1時40分から始まった。16チームによるトーナメント戦で行われ、本会は東海東部として静岡県4選手とともに本会から唯一、大将として野村時丈六段(中村)が出場した。



1回戦、九州ブロックと対戦。初戦とあってお互い慎重な試合運びとなり、中堅まで引分けが続いたが、副将戦で一本をとられて劣勢に立たされる展開となった。ポイントを挽回すべく大将の野村選手が得意の背負投を連発して奮闘したが、善戦及ばず引分け0-1で惜しくも初戦敗退となった。

けがを恐れず真剣に戦った選手たちに、台風の来襲も顧みず応援に駆けつけた会員からねぎらいの声を送られた。

### 【大会結果】

少年柔道大会 優勝 青森 準優勝 山口 第3位 広島・愛知  
優秀選手賞 中東龍人(愛知)ほか  
少年形競技会 優勝 東京A 準優勝 青森A 第3位 兵庫 第4位 岐阜  
会員柔道大会 優勝 南関東 準優勝 北信越西部 第3位 中関東・北海道

## Welcome!! 新入会員

氏名	生年月日	支部	出身校	段位	趣味
青山由裕	S60.12.2	岡崎	米田柔整	—	筋トレ
河合秀憲	S62.9.3	中村	米田柔整	式段	硬式テニス
杉浦元彦	S51.10.5	一宮	中和医療	式段	ドライブ
新井根栄	S56.5.26	大曾根	米田柔整	初段	ロードバイク



青山由裕会員

河合秀憲会員

杉浦元彦会員  
子どもの運動会にて

新井根栄会員

## “大切なのは残心を忘れないこと”

平成26年度第22回 日整学術講習会・生涯学習講習会



小笠原先生  
(インターネットより転載)

10月12日(日)正午から、日整会館において第22回日整学術講習会・生涯学習講習会が開催され、本会役員8名が参加した。

特別講演として、小笠原流礼法宗家・小笠原敬承斎先生が、「～日常に活かす武士の心得～」と題し、礼儀作法の基本動作とその基本動作にはどのような理由があるかなどについて語られた。

現代の礼儀作法は、室町期の古文書などによる武士の心得から端を発しており、すべての作法には理由がある。先生は身だしなみや姿勢、立礼、挨拶などの基本動作を紹介しながら、その動作の理由や効果を述べられた。立礼で重要なことは、「残心を忘れないこと」…。動作の最後まで相手に心を残すことであると先生は説く。そのためには動作を分けること、間(ま)を取ることが大事である。お辞儀を、「前屈」・「停止」・「戻す」の3動作に分け、戻す際も前屈する時と同じ速度で行なうことが残心につながる。

礼節を涵養する少年少女の柔道指導の面からも大変参考になるご講演であった。

午後1時20分からは、富山大学大学院柔道整復学講座報告会が行われ、同大学院・西条寿夫教授が、「当研究所における5年間の歩み」と題して、微小筋傷害に対し得られつつある医学的エビデンスなどについて報告された。

その後、愛媛県のボランティア活動報告、北海道会員による肩関節拘縮に対する手技療法の発表などが行われ、最後に「モンゴル国の医療制度について」と題して、モンゴル国立医療科学大学のバタバートル・ガンチン学長が講演され、午後4時40分終了となった。

## 豊橋支部学術研修会開催 (支部広報担当 斎藤禎久)



田代先生

9月7日(日)、豊橋市民センターに於いて豊橋支部学術研修会が行われた。参加者は支部会員26名、他支部より4名の合計30名であった。

まず始めに支部会員発表として、荒島園代会員が「肩関節亜脱臼後の肩関節の外観の変形に対する運動療法」、鎌田雅祐会員が「アキレス腱断裂の難治性の1症例」をそれぞれ行った。両会員とも準備に時間をかけ、視覚にも訴える充実した発表であった。

続いて、栃木県の田代接骨院院長 田代富夫先生をお招きし、亜急性の問題から接骨院経営に関することまで幅広いトピックスで講演をいただいた。参加者も業務に直結するテーマだけに、真剣に聞き入る様子が印象的であった。

今後も多くの方が参加していただける充実した学術研修会となるように努力していきたい。